

自己評価結果公表シート

認定こども園 小樽オリーブ幼稚園

1. 園の教育目標

2021年度

本園はキリスト教の信仰に立って、神を畏れ、隣人を愛して、思いやりのある子ども、健康な子ども、自主性のある子どもを育てることを目標とする。

園児一人ひとりに対して、神と人々に愛されるものとして、成長し、心豊かな人間性を持つよう育成することを指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

新型コロナ禍の中、昨年度同様、評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施し、教師自らがこの一年を振り返り、自園の在り方を検討、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、当園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	教育課程を踏まえ園長以下教諭、非常勤教諭をも含めて取り組み、当園の教育知念や方針の理解を深め、教育課程の編成に取り組んだ。しかし、新型コロナ禍の中で状況に応じて変更せざるを得ないこともあったが、最大限の取り組みをした。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	今年度も指導計画に従って、子どもの在り方に即した内容を組み立てた。昨年度よりは復活出来たこともあった。その都度、臨機応変に対応しつつ、出来る限りの行事も行った。また、少人数であることを生かして、互いの関わりを豊かなものにし、成長することが出来るよう計画を作成している。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	ウイルス対策として消毒、マスクの着用、体温の記録などは日常のこととして行う生活習慣となった。日々の記録、振り返りを通して、実態を把握し、月案、週案の中に必要な計画を立てつつ日々の保育にあたっている。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	新型コロナウイルス感染を予防しつつ、感染の可能性がありそうなことを防止しながら各クラスの月や週の目標を定め、日々達成状況を把握し、振り返りつつ、善かったところは継続し、改善すべきところを改善しつつ、取り組んでいた。
子どものよさを認めて評価しようとしている。	一人ひとりの子どもの特性に反応しつつ、教諭がそれぞれの子どもに対応、保育の仕方も工夫し、特に支援を必要としている子には非常勤職員を含めて手厚く対応するようにしている。

遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子どもたちが自発的な遊びを楽しみ、友だちと共に一緒に遊べる環境を整え、友だちとの遊びを通して人間関係を良好に持てるよう配慮しつつ子どもたちの話しをよく聞きつつ関わりを持つようにした。子どもたちの遊びに広がりを持てるよう関わっていた。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	新型コロナ禍での新たな生活習慣を身に付けられるよう促すなどしていた。生活習慣が身についていない子に対しては無理にさせることはせず、自らしようと思えるのを待ちつつ、忍耐強く取り組んでいた。
全職員が一丸となって、全園児の保育を行うよう連携する。	保育者の人数が足りない状況が続いていることと、新型コロナ禍で行事など中止していたことも復活させる方向で、取り組みをしていた。非常勤の教諭とも協力し合いながら、園の方針を実現する方向で取り組んだ。保育環境を整え子どもの安心してあそべることを目指した。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	職員数が救済内ことと感染予防をして、外部の各種研修会や研究会に参加するのも、殆どがオンラインでの研修であった。オンラインであるために、多くの研修を受講することが出来た面もあった。しかし、園内研修をするには至らなかった。研修とまではいかなかったが日常の話し合いの中で職員間の情報交換を毎日行い、多くを共有していた。
園だよりや合同研修会を通して、幼稚園の情報を発信していく。	園だよりにより園の教育方針や取組みを記載することは継続した。新型コロナウイルス感染予防について保護者にも理解してもらいつつ、実際の状況についての情報が伝わるようにラインやインスタグラム、ブログなどを活用し、文書を多く出した。
保護者との係りを密にし、幼稚園で行われていることが保護者に伝わるようにしていく。	参観日、行事などを行うにしても、保護者の参加については制限する中で行わざるを得なかった。保護者との個人面談は春の家庭訪問を変更して行った。送り迎えのバスの乗り降りの際などに、出来るだけ伝えることは継続している。園だより以外にも、ブログ、インスタグラムなどを通して様子を頻繁に知らせた。
園の運営状況や規則などを把握できるように園内で公開する。	職員の打ち合わせを定期的に行うこととし、園の運営についての理解を深めるための時間を取った。また、職員の配置などについても話し合いをもって決定した。職員も園の運営に携わっていることを覚えるようにした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
----	----

A	<p>就業規則などを共有し、働き方の改革に取り組み、残業、有給休暇などについても話し合いをもって対応を協議し、課題への取り組みが行われた。教諭不足が続いているので、正職員の負担が大きくなっていることを踏まえて、非常勤の教諭にも最大限の時間を関わってもらうようにしている。負担が大きくなっていることに対して給与面でも処遇改善をした。</p> <p>施設面では一部屋の内装を今年もすることが出来た。また、照明器具を学園の他の園から譲ってもらうことなどを通してLEDに変更することが出来た。遊具でも不具合のあるものは修繕をした。子ども達が安心、安全に遊べる環境になるように運転手の協力を得て努力しており、概ね良い環境を整えている。園庭に、市から紹介された農家から譲ってもらったブドウの苗を植え、育成することが出来ている。</p>
----------	---

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	<p>新型コロナ禍で出来なかったことの中からいくつか復活することがあったが、まだまだ通常通りではないので、来年度に向けて更に見直しをする必要がある。また、園だよりや参観日などを通して保護者への理解を広げていくための取り組みを継続していく。日常の保護者との接触が困難ではあるが機会を作るよう工夫をしていくことが必要であろう。HPは必要に応じて、ブログは毎日更新しており、Instagramも更新して保護者が関心をもって見られるように図る。また、町の発展に貢献しているマイプレにも園のことを載せてもらっている。</p>
自己点検、自己評価	<p>教諭不足の中ではあるがそれぞれ日頃から、負担も大きい中で、互いに自己についての認識を新たにしつつ、情報を共有し、少しの時間でも話し合いの時間を確保することに努力しているが、それを維持していく必要がある。</p>
指導計画の編成	<p>新型コロナ禍で中止したり、変更したりしたことなどを、取り戻していく話し合いを継続的に行い、園の方針に基づいて再編し、取り組む必要がある。また、従来通り環境や子どもの成長に係る内容の充実を図り、それに取り組んでいるので、その取り組みを充実出来るようにしていきたい。</p>

6. 学校関係者評価委員会の意見

別紙、委員会報告書に記されている。